



点眼薬のおはなし

薬の袋に「外用薬」と書いてあるのを見たことがあると思います。「外用薬」とは何でしょうか。答えは、のみぐすりでも注射でもないお薬のことです。例をあげると、目薬や貼り薬、塗り薬や吸入するものなど、たくさんの種類があります。今回は、よく使われている外用薬のひとつ、点眼薬（目薬）のおはなしをしましょう。

まず、点眼薬の使いかたです。手を洗ってから、容器の先がまつ毛やまぶたに触れないように注意して滴下します。下まぶたを少し下に引くと入れやすくなります。小児には、怖がらないように膝に乗せたり、目のまわりをきれいにふいてから目頭付近に点眼しまばたきで自然に入るようにしたり、寝ている間などの方法があります。泣いている最中はやめましょう。幼くても効果や必要性を説明すると理解できたりします。

ところで、点眼薬を使うとき1回に何滴使いますか。

病院で処方されたお薬は、薬袋に書いてありますね。ドラッグストアなどの町の薬局で買う一般用医薬品は箱などに記載されています。確実に点眼できれば、片目につき1回1滴で充分というのが一般的です。たくさん滴下しても、目に入る量には限度があるので、目の外に流れ、鼻や喉に流れたりします。点眼後は目頭を軽く押さえると鼻や口に薬が流れるのを防ぐことができます。手術後など傷のある場合は目を閉じるだけにします。

二種類以上を使用する場合は、5分ほど間をあけます。効果を期待するものや、しみるものを最後にするなど、より有効な使用の順番がある場合もあります。指定されている順番があったら、その順番で使いましょう。

また、点眼薬は開封するまでは無菌です。記載されている有効期限は、開封しなかった場合なので、開封したら日付を記載して、開封後のものは長期間とっておかないようにしましょう。開封後はだいたい1～3カ月が目安です。もっと短いものもあるので注意しましょう。もちろん、1回使いきりのタイプは、再使用できません。



形状の似ている水虫の薬や、冷蔵庫の食品などと取り違えないように注意しながら、記載してある保管方法で保管しましょう。また、他の人と共有するのもよくありません。

のみぐすりの“のみ合わせ”と同じように、他の薬との相互作用の可能性もあります。このように形は小さくて、一回に使う量もほんのわずかですが、奥が深いお薬です。使い方から、のみ合わせ、保管方法、その他それぞれの薬について、詳しくはお気軽に薬剤師におたずねください。

神奈川県病院薬剤師会 個人賛助会員 久保田 貴子

